

笑顔をつくる町づくり

筑波大学附属小学校 四年 昌山 琴子

私は、住む人が笑顔になるような家をつくる建ちく士になりたいと思っていた。なぜなら、自分が小さいころからあれこれ好きなように家や部屋や家具なんかを考えるのが好きだったからで、そして絵の中には必ずニコニコ笑ってる幸せな人たちがいた。

だけど今、そこに新しい疑問がムクムクとわいてきている。本当にすてきな建物や、かわいい部屋だけで人は幸せになれるのかな？ という疑問だ。どんなにすばらしい家を建てても、目の前の道路では車がビュンビュン走って人が歩けるスペースもないくらいせまくて危険だったり、そこら中ゴミだらけだったり、がい灯もお店も少なくて暗くて安心できないような町だったらお家でニコニコ笑えるのだろうか？ こういう住んでるかんきょうの問題点を考えて町づくりをしたり、公園や公共のしせつを作ったりする人のことを、「かんきょう

うデザイナー」というらしい。

でもみんながニコニコできる町ってどんなだろう？ 私は、自分のお気に入りの場所を思い出した。うちは住宅街で人も多い所だけど、近所にいろいろな植物が植えられた長い緑道とせせらぎがあつて、水の中には小さい魚やニシキゴイもいたりして大きな白い鳥も飛んでくる。春には桜なみ木の下でお花見をしたり、子どもたちがザリガニをつったりランニングをしたり、たくさんの人たちがニコニコすごしている場所だ。

でも元々その道はきたないドブ川だったと聞いておどろいた。そのままだったらみんなの顔は今もどんよりしていたにちがいない。だけどそこをどうにかしようと考えて町づくりをしてくれた人たちのおかげでこんなにすてきな場所に生まれ変わった。だから私はよりたくさんの人を笑顔にする町づくりに関われる「かんきょうデザイナー」になりたいと思った。

昌山 琴子 のライフプラン

将来なにになりたいか？かんきょうデザイナー

その理由：住んでいる人が笑顔になれるような家作りや町作りをしたいから

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	9(小4)	自分の住んでいる、町をよく歩いて見てまわって、観察する。	
2023年	10(小5)	コロナがもし落ちたら色々な町に行き、その町も観察する。	旅行代
2024年	11(小6)	今後世界に旅行に行くために英語の勉強をがんばる	英言語のじゅく代 学習じゅく代
2025年	12(中1)	中学数学の勉強(とくに理系)をがんばる。もらったおこづか(1)を	中学授業料 学習じゅく代
2026年	13(中2)	しょう来にそなえて計画的に使う。	
2027年	14(中3)	建ちくかかきょう問題を考えられる高校を選べるように勉強をする。	
2028年	15(高1)	高校でとくに算学と理科をがんばる	高校授業料
2029年	16(高2)	きょうみを特た建ちくしせつ、町の取り組みなどを具体的に調べたり。	本代 学習じゅく代
2030年	17(高3)	建ちくかかきょうデザインのある学科の大学を調べる。	
2031年	18(大1)	建ちく家かかんきょうデザインを学べる大学に入学!	大学授業料
2032年	19(大2)	つくば大学の芸術デザイン(学芸など)。	本代 学習じゅく代
2033年	20(大3)	インターシップを利用して、デザイン事務所、建ちく事務所、などで	
2034年	21(大4)	体面をさせてもらう。 無事卒業する(✓)	
2035年	22(入社)	二系及建ちく士をめざして仕事からたくさん学ぶ。	しかくの勉強代 旅行代
2036年	23(2年目)	さまざまなけん場で建ちくだけでなくかんきょう問題やまちづくりの取組目も目をむける。	
2037年	24(3年目)	二系及建ちく士を受身受身する	
2052年	36(15年目)	一系及建ちく士のしかくをえて地いきの人に信らられるかんきょうデザイナーになる!!	

※最後の行は、何歳の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう!